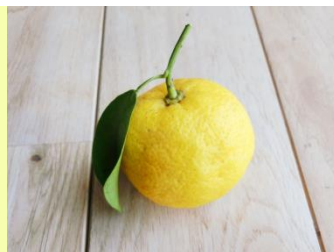


岩手県自殺対策推進センター ニュースレター

No.73 2016.12.21

発行：岩手県精神保健福祉センター・岩手県自殺対策推進センター



このニュースレターは、県内に拡がりつつある自殺対策支援の輪を強化するため、地域の自殺対策のノウハウに関する情報を発信していきます。

ニュース 年度末に向け、自殺対策の強化を

警察庁の自殺統計に基づく平成28年10月の自殺者数

平成28年11月28日に厚生労働省自殺対策推進室から発表された「警察庁の自殺統計に基づく自殺者数の推移等」によると、全国の平成28年10月の自殺者数(1,781人：暫定値)は、対前年同月比235人(約11.7%)減となり、平成28年1月～10月までの累計自殺者数

(18,495人：暫定値)は、対前年比1,857人(約9.1%)減となりました。一方、岩手県の平成28年10月の自殺者数(22人：暫定値)は、**対前年同月比1人(約4.8%)の増加となりました。**年度末に向け、自殺対策のさらなる強化をお願いします。

	平成27年10月(確定値)		平成28年10月(暫定値)		自殺者数対前年比	
	自殺者数 (人)	自殺死亡率 (%)	自殺者数 (人)	自殺死亡率 (%)	自殺者数 (人)	増減率 (%)
全国	2,016	1.6	1,781	1.4	△235	△11.7
岩手県	21	1.6	22	1.7	1	4.8

発表されたデータはこちらのページから参照できます。↓
厚生労働省> ~>自殺対策>
~>自殺の統計：最新の状況
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakuni suite/bunya/hukushi_kaigo/shougai shahukushi/jisatsu/jisatsu_new.html/

トピックス 自殺未遂者支援の取り組み

自殺と自殺未遂、自傷行為とは

『自殺』とは、死のうという「意図」と、この方法なら死ぬという「予測」に基づいて自らを傷つける行為です。結果、死に至れば『自殺既遂』となり、死に至らなければ『自殺未遂』となります。

『自殺』と関連のある行為に『自傷行為』があります。自傷行為は、死のうという意図と、この方法なら死ぬという予測がない(もしくは不明確な)状態で自身を傷つける行為といえます。自傷行為の一例としては、リストカットや、たばこの火を自身に押し付けるという行為があります。自傷行為そのものは自殺企図とは異なりますが、自傷行為は長期的には自殺につながる可能性のある自殺関連行動のひとつです。

自傷行為の理解と援助研修を開催しました

12/5(月)に、二戸地区合同庁舎を会場に、二戸保健所と精神保健福祉センターとの共催で「平成28年度自傷行為の理解と援助研修」を開催しました。二戸圏域で支援を行っている大勢の医療福祉関係者、教育関係者にご参加をいただき、自傷行為の理解と対応について学び、共通理解を持つ機会となりました。

自傷行為は長期的には自殺につながる可能性があり、自傷行為を繰り返す人は自殺のハイリスク者といえます。実際に、当センターで取り組んでいる自殺未

遂者支援事業でケアマネジメントにより支援している自殺未遂者の多くには、リストカットをはじめとする自傷行為や向精神薬等の過量服薬の経過が認められています。

研修では精神保健福祉センター所長小泉範高の講義において、自傷行為は「心の痛み」への対処(不快感への対処)として行われること、自傷行為はアディクション(嗜癖)としての側面を持つため繰り返されやすい行動であること、問題は自傷行為そのものではなく「つらい感情」を誰にも打ち明けずに自分一人で解決しようとする生き方にあると説明がありました。また、援助者は自傷行為について叱責や禁止の言葉を発するのではなく、まずは本人の言葉に耳を傾けることが大事であるとアドバイスがありました。

自殺未遂者支援事業の取り組み

岩手県精神保健福祉センターでは、県内でも自殺死亡率が高率で推移してきた二戸地域を対象として自殺未遂者支援事業を実施しています。図1に、現在の支援体制図を示します。精神保健福祉センターの職員が定期的に一戸病院に訪問し、自殺未遂者へのサポートコール等を通じて支援(ケアマネジメント)を行っています。自殺未遂者への支援では身体・精神・生活面等複数の面にまたがる多方面からのアプローチが大切

です。そのため、未遂者支援は多くの支援者と連携・協働して行うことが必須となります。本事業では、二戸地域の医療機関と地域の支援者と協力して、自殺未遂者の方を検知し、地域ケアに繋げています。

図1 二戸地域未遂者支援の体制



H28/12/5

「自傷行為の理解と援助研修」の様子。↓



参考:

「自傷行為の理解と援助」
松本俊彦 著 2009
日本評論社

「自殺未遂患者への対応 救急外来・救急科・救命救急センターのスタッフのための手引き」
日本臨床救急医学会 2009

フィールドレポート 当事者自主グループ「小さな集まり」

当センターで開催している「小さな集まり」をご紹介します。本グループは社会復帰や社会生活に不安を抱える方を対象として、話し合い、ヨガなどのリラクゼーション、外出活動などを通し、ストレスとの上手なつきあい方を習得したり、社会復帰や社会生活の不安軽減を目指しています。

開催日時は、原則毎週火曜日の13:30~15:00です。場所は当センターです。なお、参加希望の方は、事前に当センターに電話でご連絡をいただき、個別面接を実施した上で参加いただいております。また、医療機関で治療中の方は主治医の承諾をいただきます。対象の方があればご紹介ください。



↑ H28/10/13

外出プログラムで訪れた盛岡市中央公園

インフォメーション H29年1月~3月のプログラム等のご案内

専門職向け研修 対象: 保健医療福祉関係者等

日程	テーマ・概要 等
1 1/5(木) 14:00~ 16:00	アルコール・薬物依存症事例検討会 助言者: 岩手医科大学附属病院 精神科医師 工藤 薫 氏 ・ミニレクチャー/アルコール・薬物依存症問題の対応等、・事例検討1例
2 1/12(木) 14:00~ 16:00	地域ケア検討会 助言者: 岩手医科大学附属病院 精神科医師 工藤 薫 氏 ・ミニレクチャー/精神保健の理解と対応(4)「摂食障害」、・事例検討1例
3 2/9(木) 14:00~ 16:00	地域ケア検討会 助言者: 岩手医科大学附属病院 精神科医師 工藤 薫 氏 ・ミニレクチャー/精神保健の理解と対応(5)「境界性パーソナリティ障害」 ・事例検討1例
4 3/2(木) 14:30~ 16:00	アルコール・薬物依存症事例検討会 助言者: 岩手医科大学附属病院 精神科医師 工藤 薫 氏 ・ミニレクチャー/アルコール・薬物依存症問題の対応等、・事例検討1例
5 3/9(木) 14:00~ 16:00	地域ケア検討会 助言者: 岩手医科大学附属病院 精神科医師 工藤 薫 氏 ・ミニレクチャー/精神保健対応と最近の話題、・事例検討1例

※プログラム、申込書等、詳細はホームページをご覧ください。ホームページから申込書をダウンロードし、記入のうえ、FAXで申し込んでください。

申し込み・お問合せ先:

岩手県精神保健福祉センター
☎ 019-629-9617
FAX 019-629-9603